

肛門部疾患診察のピットフォール

東郷杏一

(しんあい病院肛門外科)

肛門部疾患は、1) 内痔核、2) 外痔核、3) 痔瘻および肛門周囲膿瘍、4) 裂肛 5) 皮膚疾患などがあげられます。いずれか判明しづらい疾患も、また、合併している疾患もあります。今回は特に内痔核診察、治療のピットフォールを紹介いたします。内痔核は肛門内に存在するだけでは症状も無いので治療対象となりません。ただ、肛門管内や肛門外にまで降りてくると、疼痛が出現したり、外痔核を伴ったり、出血したりして治療対象となります。外痔核を伴う急性期の内痔核の場合は、症状は強烈ですが、冷凍療法と薬物療法でかなり良くなり、手術加療を必要とする場合は意外に少なく、発症から約 2~4 週で軽快します。しかし、慢性化すると排便時に肛門外へ脱出したり、出血を伴ったりしますので注意が必要です。病院受診をされる患者さんで脱肛を伴う場合には診察時に自己還納されて診察に入られる方がほとんどです。視診だけでは正確な診断ができませんので、怒責診を追加しています。内痔核のみの肛門脱は以外と少なく、大概の場合は肛門管内外痔核を合併します。しかしそのような場合でも、用手還納が可能な場合には、4段階注射法で加療する事が可能です。当院での興味ある 1 症例を提示させていただきます。